

科目名	エアラインサービスマナー I A						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	森永 久美子/宮崎 みゆき	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験	航空会社にて客室乗務員として勤務 /国際線グランドスタッフとして勤務	
対象学科・学年	エアライン科1年生						
授業概要	これからエアライン科の学生として学ぶ上で必要なマナーと身嗜み、ヘアメイクを学ぶ。本授業で基礎を学び、日々の学校生活の中で実践練習を積み、活かしてもらう。航空業界の受験に必要な基本的な素質の定着も図る。						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			エアラインメイクが出来る。	
			○			社会人として基本的なマナー(特に立ち居振る舞い)を実際に行動化出来る。	
			○			就職試験での入退室のマナーを理解し、行動化出来る。	
		○				客室乗務員、グランドスタッフの基本業務を理解し、基本動作が出来る。	
			○			丁寧で美しい言葉遣いで自己アピール出来る。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	2	目標設定				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	3	挨拶の仕方・第一印象について				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	4	エアラインヘアメイクレッスン(ベースメイクの基礎)				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	5	エアラインヘアメイクレッスン(アイシャドウ・口紅の選び方)				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	6	エアラインヘアメイクレッスン(髪型のまとめ方)				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	7	エアラインヘアメイクレッスン(実戦練習・まとめ)				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	8	接客練習(挨拶の仕方)				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	9	接客練習(お辞儀の仕方)				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	10	面接の受け方(就職面接で重要視されること)				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	11	面接の受け方(入退室について)				授業内容に係る実技テストを実施するので、練習しておくこと(0.5時間)	
	12	面接の受け方(入退室、挨拶の仕方について)				授業内容に係る実技テストを実施するので、練習しておくこと(0.5時間)	
	13	客室乗務員の業務について				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	14	グランドスタッフの業務について				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
	15	自己表現の仕方				授業で習ったことを復習し、知識を定着させる (0.5時間)	
評価方法	・面接時における入退室の実技試験を行う(授業内) (チェック項目:第一印象・身嗜み・メイク・入退室方法・所作) ・数回、レポート課題をだす						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験			○			80%
	提出物	○			○		20%
履修上の注意	スーツで参加。髪型、メイクを美しく整えて、授業に臨むこと。						

科目名	エアライン入門						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	平田かおり
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	国際線GSとして勤務
対象学科・学年	エアライン科1年						
授業概要	この授業では、昨今の航空業界の国際グローバル化に伴い現場で必要となる航空基礎知識を習得し、将来業界で活躍できる人材(人財)を育成する。また空港インターンシップとの連動することで実践の場を設け、具体的なスキルを身に付けていく。						
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					航空関連業務の内容を学び、業界の概要を説明することができる。	
		○				航空業界で働くために必要な専門知識を習得し、実習や業界就職で活かすことができる。	
		○				業界で使用されるdocumentの基本となる時刻表が読めるようになる。	
				○		将来従事する職種を理解し、必要な知識だけでなく技能や心構えを持つことができる。	
テキスト・教材 参考図書	航空業界ガイドブック2022、エアラインオペレーション入門、サブノート、その他配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	導入(地理理解)、航空系の職種について					
	2	空港の種類、主要空港コード、国際関係組織				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	3	航空会社の種類、アライアンス、航空会社2レター				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	4	スポット配置、業界用語				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	5	CIQ～税関の詳細 免税範囲、関税法				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	6	CIQ～出入国の流れ、出入国管理				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	7	旅券、査証、通貨				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	8	CIQ～検疫、WHO指定感染症				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	9	航空危険物				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	10	マニフェスト理解 AWB、DG、GD				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	11	OAG理解				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	12	ケータリング(SPML、宗教理解)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	13	フォネテックアルファベット、航空無線				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	14	航空業界の目指す安全、学期総括				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	15	期末試験				復習をしっかりと行い試験に臨むこと。	
評価方法	(1)授業の中で確認テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	◎		◎		40%
履修上の注意	授業内で小テストを実施するため準備して臨むこと。						

科目名	接客サービスマナー I				
科目名(英)					
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	森永 久美子
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	航空会社にて客室乗務員として勤務
対象学科・学年	エアライン科 1年				
授業概要	接客サービスマナー検定2級の取得 ビジネスマナーの基本を身につけ、就職活動に生かす サービススタッフとしての心構えを理解する				
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他
	○				
	○				
	○	○			
	○	○			
目標					
接客に使う敬語を使えるようになる					
接客に使う漢字を書くことができ、使えるようになる					
仕事をする上で電話をかけることができるようになる。					
時候の挨拶、頭語、結語を使った手紙が書けるようになる。					
テキスト・教材 参考図書	清文社 接客サービスマナー検定 過去問題集 ウィネット 実践ビジネスマナー 課題プリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	検定概要、オリエンテーション			
	2	会社組織の仕組み			
	3	言葉遣い 尊敬語			
	4	言葉遣い 謙譲語			
	5	言葉遣い 丁寧語			小テスト実施。対策しておくこと。
	6	来客応対			
	7	電話応対			
	8	シチュエーション問題			小テスト実施。対策しておくこと。
	9	手紙送付のマナー			
	10	慶弔時のマナー			
	11	贈答時のマナー			
	12	一般常識問題(サービス関連)① 漢字			
	13	一般常識問題(サービス関連)② カタカナ英語			小テスト実施。対策しておくこと。
	14	模擬試験①			
	15	模擬試験②			
	16	模擬試験③			
	17	模擬試験④			
	18	模擬試験⑤			
	19	模擬試験⑥			
	20	模擬試験⑦			
	21	模擬試験⑧			
	22	模擬試験⑨			
	23	定期試験対策			

評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	評価割合
	定期試験	◎	○			50%
	小テスト	◎	◎			30%
	宿題・レポート		◎		◎	20%
履修上の注意						

科目名	コミュニケーション技法						
科目名(英)	Communication						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	小川 果	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	エアライン科1年生						
授業概要	コミュニケーションとは何か、より良いコミュニケーションのために大切なことは何かを理解する。 言いたいこと、言うべきことを明確・簡潔に相手へ伝えることができるようになる。 言語表現力を高めることにより、セルフエスティーム(自己肯定感)を向上し、新たな社会で生きていく自信をつける。 社会での事象に関心を深く持ち、自分自身と社会を関連づけて考えることができるようになる。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					1対1での対話がきちんとできる。	
	○					自らの意見・考え方・価値観を開示することができる。	
		○				人の話をしっかりと聞き、考え方や価値観の多様性を受容できる。	
		○				ニュースに関心をもち、社会的存在としての自分に気づくことができる。	
	○					自分とは何か、自分はどんな人間かをより深く考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会とは何か ― 社会とは？家庭とは？クラスとは？					
	2	何を学ぶか ― 何を手に入れたいか？コスト意識を持つ					
	3	コミュニケーション(1) ― マナー・返事・1対1で話す					
	4	コミュニケーション(2) ― 聞く・質問する					
	5	コミュニケーション(3) ― 相手の話を要約する					
	6	コミュニケーション(4) ― 実践報告					
	7	スピーチ(1) ― 「物」を媒介にして自分を伝える					
	8	スピーチ(1) ― 7講座の続き					
	9	スピーチ(2) ― 「言葉」を媒介にして自分を伝える					
	10	スピーチ(2) ― 9講座の続き					
	11	スピーチ(3) ― 「ニュース」を媒介にして自分を伝える					
	12	スピーチ(3) ― 11講座の続き					
	13	自己分析 ― あなたはどんな人ですか？					
	14	グループディスカッション ― テーマ未定					
	15	再び、社会とは何か ― 社会人となるため留意するポイント					
評価方法	成績は下記の観点・割合で評価する (1)出席状況 (2)平常点(発表の回数) (3)技能点(各課題ごとに評価)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		30%
	平常点(発表の回数)		○		◎		30%
	技能点	◎	○				40%
履修上の注意							

科目名	英語検定対策(TOEIC) I A					
科目名(英)	TOEIC Test Strategies I A					
単位数	6単位		時間数	90時間	担当者	和田 菜穂
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験	外資系航空会社にて客室乗務員として勤務
対象学科・学年	エアライン科1年					
授業概要	国際国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるTOEIC700点以上スコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。					
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				社会性のある内容の文章を理解することができる。(読む) ・自分の仕事に関連した日常業務のやりかたについての説明を理解できる。 ・次回ミーティングが、いつ、どこで行われるかについての説明を理解できる。
	○	○				社会性のある内容を聞いて理解することができる。(聞く) ・留守電のメッセージを聞き、相手の用件や電話番号等が聞き取れる。 ・入国管理官に、滞り場所、期間、旅の目的を英語で聞かれた時、質問が理解できる。
テキスト・教材 参考図書	新TOEICテスト書き込みドリルボキャブラリー編、リスニング編、Basic Reading Strategies for the TOEIC TEST 他					
	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	レベル分けテスト				
	2	TOEIC学習目標と出題形式、解法のテクニック、Part5対策、ボキャブラリー、WORD FORM(品詞、派生語)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	3	Part5対策、ボキャブラリー、前置詞、リスニング対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	4	Part5対策□ボキャブラリー□接続詞□前置詞				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	5	Part5対策□ボキャブラリー□動詞、助動詞□リスニング対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	6	Part5対策□ボキャブラリー□代名詞				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	7	Part5対策□ボキャブラリー□形容詞、副詞□リスニング対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	8	Part5対策□ボキャブラリー□冠詞、序数				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	9	Part5対策□ボキャブラリー□比較級□リスニング対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	10	Part5対策□ボキャブラリー□最上級				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	11	Part5対策□ボキャブラリー□形容詞、副詞、比較級、最上級□リスニング対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	12	Part5対策□ボキャブラリー□不定詞、動名詞				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	13	Part5対策□ボキャブラリー□不定詞、動名詞□リスニング対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	14	Part5対策□ボキャブラリー□不定詞、動名詞、分詞				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	15	Part5対策□ボキャブラリー□関係代名詞□リスニング対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	16	Part5対策□ボキャブラリー□関係副詞				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	17	Part7対策□ボキャブラリー□文法(仮定法)□リスニング対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	18	Part7対策□ボキャブラリー□文法(仮定法)				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	19	Part7対策□ボキャブラリー□文法(話法)□リスニング対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	20	Reading part5対策□ボキャブラリー				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	21	Reading Part5対策□ボキャブラリー□リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。

授業計画	22	Reading対策□ボキャブラリー□Skimming□Scanning				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。		
	23	Reading Part5対策□リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	24	Reading Part5対策□リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	25	Reading Part5対策□リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	26	Reading Part5対策□リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	27	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	28	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	29	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	30	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	31	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	32	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	33	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	34	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	35	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	36	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	37	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	38	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	39	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	40	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	41	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	42	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	43	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	44	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。		
	45	定期試験対策□学期総括						
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)TOEICを学期末に実施する。 評価方法は700点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。 (3)単語テストを20回実施し、評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
定期試験		◎	○				60%	
TOEIC(IP)		◎	○				30%	
単語テスト		◎	○		○		10%	
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	英語検定(2級)対策 I A					
科目名(英)	EIKEN Test/TOEIC Test Strategies I A					
単位数	6単位		時間数	90時間	担当者	岡本 彩 石田 小雪
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験	岡本:大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)
対象学科・学年	エアライン科1年					
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。					
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)
	○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)
	○	○				事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)
	○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)
テキスト・教材 参考図書	英検過去問題集、TOEIC L&Rテスト公式問題集					
	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	レベルチェックテスト				
	2	オリエンテーション、英作文、音読、ディクテーション				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	英検ライティング、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	英検ライティング、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	英検ライティング、リスニング				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	英検模擬試験 問題1 筆記				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	英検模擬試験 問題1 リスニング 解答&解説大問1				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問1、2				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問3				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
18	英検模擬試験 問題1 解答&解説大問3				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	

授業計画	19	英検模擬試験 問題1 モデルライティング練習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	20	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	21	英検本試験解説 大問1	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	22	英検本試験解説 大問2	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	23	英検本試験解説 大問3	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	24	学外英語研修	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	25	英検本試験解説 モデルライティング練習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	26	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	31	英検二次対策 スピーキング／英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	32	英検二次対策 スピーキング／英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	33	英検二次対策 スピーキング／英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	34	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	35	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	36	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	37	TOEIC 語彙、Part5、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	38	TOEIC 語彙、Part6、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	39	TOEIC 語彙、Part6、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	40	TOEIC 語彙、Part7、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	41	TOEIC 語彙、Part7、リスニング	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	42	TOEIC模擬試験 問題1 筆記	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	43	TOEIC模擬試験 問題1 リスニング 解答＆解説	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	44	TOEIC模擬試験 問題1 解答＆解説	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	45	前期まとめ					
評価方法	(1)学内で英検を実施する。英検2級完全合格を90点、1次合格を85点、1次不合格のバンド-1～-3は80点～75点、バンド-4～-6は75点～70点、バンド-7以下は65点とする。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定(準2級)対策 I A				
科目名(英)	EIKEN Test/TOEIC Test Strategies I A				
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	野々村賢一/石志正雄 宮崎みゆき/中山久豪
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	野々村:英語講師21年 宮崎:国際線GSとして勤務 石志:外資系翻訳会社にて勤務
対象学科・学年	エアライン科1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)					
社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。(書く)					
電話や対面の会話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)					
与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に語り上げることができる。また、短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)					
テキスト・教材 参考図書	英語検定準2級過去問				
	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション			
	2	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	3	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	4	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	5	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	6	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	7	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	8	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	9	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	10	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	11	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	12	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	13	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	14	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	15	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	16	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	17	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	18	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	19	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	20	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5			予習、復習を行って授業に臨むこと。

授業計画	21	英検本試験解説	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	22	英検本試験解説	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	23	英検本試験解説	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	24	学外英語研修	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	25	英検本試験解説	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	26	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	27	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	28	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	29	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	30	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	31	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	32	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	33	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	34	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	35	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	36	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	37	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	38	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	39	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	40	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	41	TOEIC Part5、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	42	TOEIC模擬試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	43	TOEIC模擬試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	44	TOEIC模擬試験	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	45	前期まとめ	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
評価方法	(1)学内で英検を実施する。英検準2級完全合格を85点、1次合格を80点、1次不合格のバンド-1は75点、バンド-2は73点、バンド-3は70点、バンド-4は68点、バンド-5は65点、バンド-6は63点、バンド-7以下は60点とする。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点、割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A										
科目名(英)	General English I A										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		石志 正雄		
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		外資系翻訳会社にて勤務		
対象学科・学年	エアライン科1年										
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。										
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解することができる。					
	○	○				5文型を使い分けすることができる。					
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。					
	○	○				不定詞と動名詞を使い分けすることができる。					
テキスト・教材 参考図書	オリジナル学習プリント										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	レベルチェックテスト									
	2	自己紹介／5文型とは／第二文型 導入					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	3	第三文型、第一文型 導入					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	4	第四文型、第五文型 導入					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	5	第二文型 復習					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	6	第三文型、第一文型 復習					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	7	第四文型、第五文型 復習					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	8	その1 時制					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	9	その1 時制 つづき					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	10	その2 完了形					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	11	その2 完了形 つづき					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	12	復習 その1 時制・その2 完了形					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	13	本番前復習					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	14	その3 助動詞					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	15	その3 助動詞 つづき					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	16	復習 その3 助動詞					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	17	その4 受動態					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	18	その4 受動態 つづき					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	19	復習 その4 受動態					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	20	その5 不定詞					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	21	その5 不定詞 つづき					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	22	復習 その5 不定詞					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	23	復習 その5 不定詞 つづき					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	24	その6 動名詞					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				

	25	その6 動名詞 つづき 復習 その6 動名詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	26	復習 その6 動名詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	問題演習 その1	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	問題演習 その2	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	期末テスト前復習	前回の復習を行って授業に臨むこと				
	30	期末テスト前復習	前回の復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1) 定期試験（筆記）を実施する。 (2) 学内でTOEIC（IP）検定試験を実施。 700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を70点以下とする。 (3) 小テストを6回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC（IPテスト）	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A									
科目名(英)	General English I A									
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		野々村 賢一	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		英語講師21年	
対象学科・学年	エアライン科1年									
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。									
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解し、説明することができる。				
	○	○				文型ごとの動詞を使って、文を作ることができる。				
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。				
	○	○				不定詞と動名詞を使い分けすることができる。				
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割								
	2	品詞と文型 第2文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	3	品詞と文型 第2文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	4	品詞と文型 第3文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	5	品詞と文型 第1文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	6	品詞と文型 第1文型、第4文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	7	品詞と文型 第4文型と第3文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	8	品詞と文型 第5文型①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	9	品詞と文型 第5文型②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	10	5文型を使って自己紹介文30文作成					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	11	なぜ5文型の把握が大切なのか①英語が複雑になる3大理由①修飾語					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	12	3つの構成単位:語・句・節					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	13	句と節の対処法:句・節の「範囲」を把握し、()でくる					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	14	なぜ5文型の把握が大切なのか?②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	15	句・節の「役割」を特定する					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	16	なぜ5文型の把握が大切なのか③					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	17	読解問題①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	18	読解問題②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	19	準動詞の概要:To V とing					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	20	不定詞の名詞的用法:問題と読解					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
	21	不定詞の形容詞的用法:問題と読解					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと			
22	不定詞の副詞的用法:問題と読解					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				

	23	ingの用法①動名詞の概要説明	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	24	ingの用法①動名詞の文法問題と読解	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	25	ingの用法②分詞の概要説明	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	26	関係代名詞の概要説明	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	関係副詞の概要説明	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	関係代名詞と関係副詞の使い分け・文法問題・読解	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	まとめ①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	まとめ②	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A										
科目名(英)	General English I A										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		岡本 彩		
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)		
対象学科・学年	エアライン科1年										
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。										
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解することができる。					
	○	○				文型ごとの動詞を使って、文を作ることができる。					
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。					
	○	○				英語の時制を理解し、身の回りの出来事を表現できる。					
テキスト・教材 参考図書	基礎からのジャンプアップノート英文法演習ドリル ステップアップ英文法基礎										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割									
	2	品詞と文型 第2文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	3	品詞と文型 第2文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	4	品詞と文型 第3文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	5	品詞と文型 第3文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	6	品詞と文型 第1文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	7	品詞と文型 第1文型、第4文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	8	品詞と文型 第4文型と第3文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	9	品詞と文型 第5文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	10	品詞と文型 第5文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	11	品詞と文型 第5文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	12	5文型を使って自己紹介文30文作成					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	13	時制①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	14	時制②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	15	時制③					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	16	時制④					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	17	時制⑤					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	18	助動詞①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	19	助動詞②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	20	助動詞③					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	21	形容詞・副詞①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	22	形容詞・副詞②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	23	形容詞・副詞③					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
24	名詞・冠詞①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと					

	25	名詞・冠詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	26	代名詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	代名詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	代名詞③	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	前置詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3)品詞テストを10回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	品詞テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語ⅠA							
科目名(英)	General EnglishⅠA							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	石田 小雪	
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	語学教育企業にて数か国のネイティブと勤務	
対象学科・学年	エアライン科1年							
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。							
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解することができる。		
	○	○				文型ごとの動詞を使って、文を作ることができる。		
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。		
	○	○				不定詞と動名詞を使い分けすることができる。		
テキスト・教材 参考図書	英文法トレーニングノートα、英文法・作文トレーニングノートα、英文法トレーニングノートβ							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割						
	2	品詞と文型 第2文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	品詞と文型 第2文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	品詞と文型 第3文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	品詞と文型 第1文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	品詞と文型 第1文型、第4文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	品詞と文型 第4文型と第3文型					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	品詞と文型 第5文型①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	品詞と文型 第5文型②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	5文型を使って自己紹介文30文作成					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	時制①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	時制②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	時制③					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	助動詞①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	助動詞②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	形容詞・副詞①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	形容詞・副詞②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	形容詞・副詞③					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	名詞・冠詞①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	名詞・冠詞②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	21	代名詞①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	22	代名詞②					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	23	前置詞					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	24	接続詞①					前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	

	25	接続詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	26	不定詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	不定詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	動名詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	動名詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3) 小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Airline English I A							
科目名(英)	Airline English I A							
単位数	2		時間数	30		担当者	Andrew Highcock Eoghan Mac Coille	
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験		
対象学科・学年	Airline 1							
授業概要	1. Students can raise their English proficiency. 2. Students can gain more confidence in using English. 3. Students can gain workplace related English skills.							
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					Students can raise their English proficiency.		
	○					Students can gain more confidence in using English.		
	○					Students can gain workplace related English skills.		
テキスト・教材 参考図書								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	Get to know your teacher				none		
	2	1.1 Nice to meet you				Preview lesson materials and review previous lesson		
	3	1.2 Travel Light				Preview lesson materials and review previous lesson		
	4	1.3 Can I Have a Coffee?				Preview lesson materials and review previous lesson		
	5	Teacher's Lseeon or 1.4 Fawltly Towers (needs TV/DVD)				Preview lesson materials and review previous lesson		
	6	1.5 Lookback /teacher's lesson				Preview lesson materials and review previous lesson		
	7	2.1 Join Us				Preview lesson materials and review previous lesson		
	8	2.2 High Flyers				Preview lesson materials and review previous lesson		
	9	2.3 What Time Does It Start?				Preview lesson materials and review previous lesson		
	10	Teacher's Lesson or 2.4 Chalet Girl (needs TV / DVD)				Preview lesson materials and review previous lesson		
	11	2.5 Lookback / Teacher's lesson				Preview lesson materials and review previous lesson		
	12	3.1 Just Good Friends				Preview lesson materials and review previous lesson		
	13	3.2 Big Happy Families				Preview lesson materials and review previous lesson		
	14	Review and Practice for Speaking Test				Preview lesson materials and review previous lesson		
	15	Speaking Test				Review previous lesson material		
評価方法	Students evaluation: (1) Test – 50% (2) Class participation – 25% (3) Attendance – 25 % The scoring scheme is: S (90 and above); A (80~89); B (70~79); C (60~69); D (59 and below)							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験 Semester End Exam		○	○		○		50%
	小テスト In-class Tasks		○	○		○		50%
履修上の注意	Students will not receive a grade if they miss more than 5 classes.							

科目名	SPI I A						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	瀧口 恵子/松藤 奈穂子 合力 朱実/中山 久豪
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	エアライン科1年						
授業概要	航空業界への就職試験では、多くの企業でテストセンターやWEBテスト、ペーパーテスト等の適性検査が実施されている。その際、制限時間内に正確な解答を導き出す力が必要である。この授業では、SPI非言語分野の頻出テーマをとりあげ、その解き方を学ぶ。また、近年多く実施されているWEBテストでの四則逆算問題対策として、この授業では時間内に目標数の四則演算問題を解けるようになる。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を学び、覚える。	
		○				各問題に対する基本的な解き方を覚えた上で、応用問題にも活用できる。	
		○				四則演算の問題を制限時間内に、目標数解くことができる。	
		○				SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を他者に対して説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1回レベルチェック(クラス分け)テスト				特になし。	
	2	速さ(基本公式の確認・速さの変換)				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。(0.5時間)	
	3	速さ(往復の速さ・応用問題)、旅人算(基本公式の確認)				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	4	旅人算(出会い算・追いかかけ算応用問題)				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	5	場合の数・確率				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	6	確率				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	7	前半範囲のまとめ				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	8	第2回レベルチェック(クラス分け)テスト				速さ～集合の範囲まででテストを実施する為、復習をしておくこと。(3時間)	
	9	集合				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	10	仕事算				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	11	損益算(基本用語・公式の確認、基礎問題演習)				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	12	損益算(応用問題)				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	13	代金精算・割引料金・推論(正誤判断)				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	14	推論(順番推理・内訳推理)				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	15	前期範囲のまとめ				テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。習った範囲の復習をしておくこと。(0.5時間)	
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)宿題を課す。 (3)中間テストとして、第2回レベルチェックテストを実施する。(4)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	中間テスト (第2回レベルチェックテスト)	◎	◎				20%
	宿題・確認テスト	○			◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	一般教養ⅠA						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	瀧口 恵子	
実施年度	202年度		実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	エアライン科1年						
授業概要	就職試験問題に対応できる基礎力を養成する。国語・数学・英語・社会における一般常識力を身に付け実際の企業の採用試験に解答できる能力の養成を目指す。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					漢字検定準2級程度の漢字までの読み書きができる	
	○					方程式・因数分解などの問題を理解し解答することができる	
	○					英検準2級程度の問題に解答することができる	
	○					日本をはじめとした主要国の地理や政治においての基礎的な内容を理解し説明ができる	
テキスト・教材 参考図書	「専門学校生のための一般常識トレーニング」 一ツ橋出版 第4版 2013年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目概要・シラバス説明				次回学習部分に目を通しておく(0.5時間)	
	2	ROUND1: 漢字、英語(動詞の活用変化)、主な国際機関、時事用語				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	3	ROUND2: 社会(環境問題、選挙、国内政治、宗教)、漢字の知識				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	4	ROUND2: 英語(英文書き換え)、敬語表現、文学史				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	5	ROUND3: 英語(単語の知識)、社会(憲法、思想)、国語(漢字の知識、四字熟語)				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	6	ROUND4: 社会(歴史、国際連合)、文学史				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	7	ROUND4: 社会(歴史、地理)、計算問題(分数) ROUND5: 国語(漢字の知識)、時事問題				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	8	ROUND5: 社会(世界の発明家)、英語(動詞の活用変化、時制、仮定法) ROUND6: 主な国際機関、英語(空所補充)				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	9	ROUND7: 国語(四字熟語)、社会(各国の歴史と現状、名言、名句) ROUND8: 国語(ことわざ)				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	10	ROUND8: 社会(天皇の国事行為、内閣、歴史)、英語(単語の知識) ROUND9: 英語(熟語の知識)、時事問題、数学(損益算)				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	11	ROUND9: 社会(歴史、国内経済)、数学(指数、割合)、英語(空所補充)				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	12	ROUND10: 英語(単語の知識)、社会(経済)、数学(√の計算)				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	13	ROUND10: 国語(漢字の知識)、社会(各国の歴史と現在の状況)				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	14	ROUND10: 英語(空所補充)、時事問題				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	15	ROUND1～10のまとめ				試験範囲の部分の復習(1.5時間)	
評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト (3)出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○		○		80%
	小テスト(筆記・2回)	◎	○		○		10%
	出席状況				○		10%
履修上の注意							

科目名	日本語表現						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	宮崎 みゆき		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	空港にて国際線グランドスタッフとして勤務		
対象学科・学年	エアライン科1年						
授業概要	各場面に応じた言葉遣いやマナーがあり、言葉はその人の人格や品位をも表すといわれている。その為、語彙力を鍛え、日本語を正しく理解して状況に応じて違い分ける力が必要となる。この授業では、空港インターンシップや就職活動での言葉遣いを意識しながら、丁寧な日本語の表現方法を理解し、活用できるようになることを目指す。また、航空業界の就職試験に頻出の漢字やことわざを覚え、書き取りや意味の選択ができるようになる。						
授業形式	講義：○	演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					一般常識問題として頻出の漢字や熟語、ことわざ、慣用句を覚え、意味を説明できる。	
		○				話し言葉と書き言葉の違いを理解し、文章を訂正することができる。	
		○				敬語の遣い方を覚え、正しい表現を選択し活用することができる。	
			○			言葉ノートを作成し、多くの名言・格言にふれ、則ちき言葉をつかつ習慣を身に付ける。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト：オリジナルプリント 参考図書：日本経済新聞出版社「言葉にできるは武器になる」、SBクリエイティブ「大人の語彙力ノート」、角川新書「語彙力こそが教養である」、宝島社「語彙力練習帳」、日本実業出版社「文章力の基本の基本」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	言葉の大切さを知る、小テスト実施説明、言葉ノート作成について				特に無し	
	2	小テスト①、言葉遣いの基礎知識(敬語のルール)				小テスト範囲の事前学習、課題に取り組むこと(2時間程度)	
	3	小テスト②、グループ内発表①、敬語の基礎知識(敬語の遣い方)				小テスト範囲の事前学習、課題に取り組むこと(2時間程度)	
	4	小テスト③、敬語問題演習①、言葉で表すおもてなし①				小テスト範囲の事前学習、課題に取り組むこと(2時間程度)	
	5	小テスト④、グループ内発表②、敬語問題演習②				小テスト範囲の事前学習、課題に取り組むこと(2時間程度)	
	6	小テスト⑤、敬語問題演習③、言葉で表すおもてなし②				小テスト範囲の事前学習、課題に取り組むこと(2時間程度)	
	7	小テスト⑥、グループ内発表③、状況に応じた敬語の遣い方①				小テスト範囲の事前学習、課題に取り組むこと(2時間程度)	
	8	小テスト⑦、状況に応じた敬語の遣い方②				小テスト範囲の事前学習、課題に取り組むこと(2時間程度)	
	9	小テスト⑧、言葉力問題演習①				小テスト範囲の事前学習、課題に取り組むこと(2時間程度)	
	10	言葉力問題演習②、授業まとめ				小テスト範囲の事前学習、課題に取り組むこと(2時間程度)	
	11	定期試験				試験範囲を事前に学習しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを8回実施する。80%の正答率で合格とし、不合格者には再テストを実施する。 前期末に得点の総合ランキングを発表し、上位者を前期終了時に表彰する。 (2)毎週、レポート課題(言葉ノート作成)を実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	○			◎		20%
	課題・発表				◎		10%
履修上の注意	B5サイズのノート、A4サイズのファイルを用意すること。						

科目名	Word						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	宮原 裕花
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	コンピューター会社にてPCインストラクターとして勤務
対象学科・学年	エアライン科1年						
授業概要	パソコンの基本になるマウスの正しい操作方法や文字の入力を学習する。入力に関しては、タッチタイピング(キーボードを見ないで文字入力)をすることが実務で必要になるので、タイプクイックソフトを使いマスターする。また、文字入力は後期に学習する航空券の発券業務に必要なとなるので、ヘボン式のローマ字入力を正確に学ぶ。テキストを使って一般的なビジネス文書(社内文書・社外文書)や表の作成方法を学習する。ビジネス文書作成上のマナーを学習する。						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					マウス(パソコンの基本操作)を正しく操作できる。	
			○	○		キーボードを見ないで文字入力ができる。	
		○	○			ヘボン式ローマ字で文字入力ができる。	
	○					ビジネス文書の社外文書と社内文書の違いを説明することができる。	
		○	○			ビジネス文書作成に必要な文字入力や編集機能を効率的に操作できる。	
テキスト・教材 参考図書	Word2019クイックマスター(基本編)、Word文書処理技能認定試験 3級問題集(2019対応)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	授業概要の説明とパソコンの基本操作					
	2	タイプクイックの設定と操作					毎日15～20分タイプクイックの練習をする。
	3	タイプクイック・Word2016の基本操作					毎日15～20分タイプクイックの練習をする。
	4	タイプクイック・Word_ローマ字入力					毎日15～20分タイプクイックの練習をする。
	5	タイプクイック・Word_いろいろな文字入力					毎日15～20分タイプクイックの練習をする。
	6	タイプクイック・Word_効率的な文字の訂正					毎日15～20分タイプクイックの練習をする。
	7	Word_文章入力・入力練習問題・タイプクイック成績提出					テキスト記載の実習問題6～17を完成させる(1時間)
	8	文字編集機能・入力速度テスト(小テスト1回目)					テキスト記載の実習問題6～17を完成させる(1時間)
	9	文書作成_社内文書の作成・社内文書の特徴について					テキスト記載の実習問題18を完成させる(1時間)
	10	文書作成_社外文書の作成と作表・社外文書の特徴について					テキスト記載の実習問題19を完成させる(1時間)
	11	文書作成_画像・テキストボックスの挿入・文書作成練習問題					テキスト記載の実習問題20～22を完成させる(1時間)
	12	文書作成テスト(小テスト2回目)・作表機能の学習					
	13	オブジェクトを含んだ文書作成_画像の挿入と編集・ワードアート					テキスト記載の実習問題24を完成させる(1時間)
	14	オブジェクトを含んだ文書作成_図形描画					テキスト記載の実習問題25,27を完成させる(1時間)
	15	期末実技試験					
評価方法	(1)タイプクイックの成績提出(Lesson6まで、正解率95%以上)とタッチタイプの習得。 (2)授業内容の把握状況を確認する小テスト(入力・文書作成)を2回実施する。 (3)課題提出テキスト「30時間でマスター Word2016」内の入力練習文・ビジネス文書作成の練習問題の8割以上。 (最終授業終了時にメモリ提出。期限までに提出することも評価条件に含む。) (4)作表や画像を含む文書作成の実技問題を期末試験とする。 成績評価基準は、成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)	○	◎	◎			50%
	タイプクイックとタッチメソッド			◎	◎		10%
	小テスト	○	○	◎			20%
	課題提出		○	◎	◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価はDとする。 タッチメソッドは継続したトレーニングによって習得できる物なので、毎日15～20分程度の自主トレーニングが必要である。 公欠でテスト(小テストを含む)を受験できない場合は前もって講師に相談すること。						

科目名	ペン字						
科目名(英)	Penmanship						
単位数	1	時間数	15	担当者	入江陽子		
実施年度	2022	実施時期	前期	担当者実務経験	書道講師歴37年		
対象学科・学年	エアライン科1年						
授業概要	・航空業界で働く者として、日常生活における硬筆書写の一般知識・理解を深め、業務遂行時に実践できる基礎力を習得する。 ・正しいペンの持ち方・姿勢を守り、書写することにより集中力を身につける。						
授業形式	講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					正しい言語づかいで、自分の履歴書を書くことができる。	
			○			書式に従って、美しい文字で書写することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ペン字基本 ― 氏名練習、履歴書書式				ボールペンの練習をしておくこと。 (0.5時間)	
	2	ペン字基本 ― 基本点画				氏名の練習を復習しておくこと。 (0.5時間)	
	3	ペン字基本 ― 基本点画・筆順				基本点画を復習しておくこと。 (0.5時間)	
	4	ペン字基本 ― 字形の整え方、字形24体				筆順を復習しておくこと。 (0.5時間)	
	5	ペン字基本 ― 字形の整え方、へんとうづくり				字形の整え方を復習しておくこと。(0.5時間)	
	6	ペン字基本 ― 平仮名の字源、片仮名				平仮名の復習をしておくこと。(0.5時間)	
	7	履歴書 ― 履歴書を体裁よく書くコツ				履歴書の必要事項を調べておくこと。(0.5時間)	
	8	履歴書 ― 履歴書ペン書き練習				履歴書の下書きを仕上げておくこと。(1時間)	
	9						
10							
評価方法	(1)授業の中で清書した履歴書を試験の代わりとして評価する。 (2)数回、課題を実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書	○		◎			80%
	提出物	○	○		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	社会教養ⅠA						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	15		担当者	宮崎 みゆき
実施年度	2022		実施時期	前期		担当者実務経験	国際線グランドスタッフとして勤務
対象学科・学年	エアライン科1年生						
授業概要	社会人になる上で必要とされる主体性や働きかけ力、状況把握力を養うことを目的とし、クラス運営や委員会活動を通して、自ら考え、工夫をして行動する力を身に付けていく。クラスメイトや担任といった身近な人の為に何ができるのかを日頃から意識して行動できるように、こういった心構えで生活すべきかを知る。また、後期に始まる就職活動準備に向けて、スケジュール管理や自己分析の仕方等についても学んでいく。						
授業形式	講義：△		演習：○		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		各委員会の活動内容を理解し、担任の指示がなくても行動できる。	
		○		○		自身で目標を設定し、達成に向けた行動を心がけることができる。	
		○		○		東京研修事前課題において、グループで協力をして資料作成をし、発表することができる。	
				○		提出期限を厳守することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	クラス内オリエンテーション					特になし。
	2	目標設定・クラス内委員会活動について					目標を考えてくること。(0.5時間)
	3	1・2年生交流会					先輩への質問事項を考えてくること。(0.5時間)
	4	東京研修について(事前課題への取り組み)					特になし。
	5	就職活動準備について ①就職スケジュール、試験内容の確認					希望職種の試験スケジュールを調べてくること。(0.5時間)
	6	就職活動準備について ②自己分析					特になし。
	7	東京研修事前課題発表会					各グループで発表準備を行うこと。(1.5時間)
	8	就職活動準備について ③自己PR、職種志望動機作成について					特になし。
	9						
10							
評価方法	(1)前期中に3回作文を提出する。(2)東京研修事前課題を行う(資料作成・プレゼンテーション)。(3)数回、提出物を課す。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作文提出	○			○		70%
	東京研修事前課題		○		○		20%
	提出物				○		10%
履修上の注意	特になし。						

科目名	GCB I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1		時間数	15		担当者	宮崎 みゆき
実施年度	2022		実施時期	前期		担当者実務経験	国際線グランドスタッフとして勤務
対象学科・学年	エアライン科・1年						
授業概要	自らの責任において行動できる積極性や、良好な人間関係を構築できるコミュニケーションなど、社会で生き抜くうえでの“人間力”の根本は、自分の環境における感謝の気持ちにある。日常生活の中で「与えられることが普通」と思ってしまう“他者依存”から脱却し、周囲との協働を保ちつつ使命感を持って行動できる自立心を目指す。						
授業形式	講義:		演習:		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		自ら考え、気づく。積極的に参加(話し合い、発表)する。日常生活で実践する。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	グローバルシティズンを目指そう					振り返りレポートの作成(1時間)
	2	「協働」の態度を持った学生生活					振り返りレポートの作成(1時間)
	3	よりよい人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～					振り返りレポートの作成(1時間)
	4	マナーの本質 I					振り返りレポートの作成(1時間)
	5	マナーの本質 II					振り返りレポートの作成(1時間)
	6	グローバルシティズンとしての日常					振り返りレポートの作成(1時間)
	7	グローバルシティズンとしての目標					振り返りレポートの作成(1時間)
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて					振り返りレポートの作成(1時間)
	9						
	10						
評価方法	(1)レポートを8回実施する (2)最後の授業で発表する。 評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとなる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成・発表				◎		100%
履修上の注意							